

大分県防災航空隊所属川崎式BK117C-2型（回転翼航空機）
JA104Wの航空重大インシデント調査について
（経過報告）

令和8年3月26日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和7年4月4日、大分県防災航空隊所属川崎式BK117C-2型JA104Wが、訓練のための飛行中、機外につり下げていた消火バケツを意図せず落下させた航空重大インシデントについて、令和7年4月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報を基に、更に事実の確認や分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本調査については、本航空重大インシデントが発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり本調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空重大インシデントに関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、航空重大インシデントの原因を究明し、航空事故等の防止に寄与することを目的として行うものであり、本事案の責任を問うために行うものではない。



図1 重大インシデント機

1. 航空重大インシデントの概要

大分県防災航空隊所属川崎式BK117C-2型JA104Wは、令和7年4月4日（金）、大分県竹田市稲葉ダム湖上空において訓練のため、200Lの水が入った消火バケツをつり下げて飛行中、消火バケツが意図せず同湖に落下した。

2. 調査の概要

本件は、航空法施行規則（昭27運輸省令56）第166条の4第16号中の「物件を機体の外につり下げている航空機から、当該物件が意図せず落下した事態」に該当し、航空重大インシデントとして取り扱われることとなったものである。

運輸安全委員会は、令和7年4月4日、本航空重大インシデントの調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、機体及びカーゴ・フックの調査、各種規程類の調査、航空機及び関連装備品の設計・製造者からの情報収集等を実施した。

本調査には、重大インシデント機のカーゴ・フックの設計・製造国であるフランス共和国の代表及び顧問が参加している。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

同機は、10時17分頃、機長が右操縦席に、機長資格を持つ操縦士が左操縦席に着座し、機長の操縦により大分県竹田市内場外離着陸場を離陸し、東1.3kmに位置する稲葉ダム湖及びその周辺において、消火バケットによる自力汲散水訓練を開始した。1回目の汲散水を終え、2回目の汲水（図2-①）後に旋回したところ、消火バケットが外側に振れ（図2-②）、その後の直進時に左右に振れ始めた（図2-③）。機長は散水を中止し、振れを止めるためサイクリック・スティックを操作したが、直後、対地高度約100ft、速度約40ktで機体のカーゴ・フックから消火バケットのシャックルが外れ（図2-④）、消火バケットは10時25分頃、湖面に落下し、そのまま水没した（図2-⑤）。

落下後、フックの荷重がなくなったことを示すメッセージである「HOOK UNLOAD」*1は表示されなかった。また、地上にいた同機の整備士が着陸後、フックの状態を確認したところ、スプリング力によりフックは閉じていたものの、ロックは掛かっていなかった。フックの外観に損傷は認められなかった。



図2 推定飛行経路及び周辺地図

*1 「HOOK UNLOAD」とは、カーゴ・フックの荷重状況を示す操縦席に表示される緑色のメッセージであり、フックがロック位置にあり荷重が掛かっていないと表示される。5kg以上の荷重により消える。



図3 訓練中の同機及び消火バケットの落下の様子
 (写真の番号は図2 推定飛行経路の番号に対応する。画像は大分県防災航空隊提供)

(2) 負傷者
 なし

(3) 航空機の損壊

機 体：損傷なし（カーゴ・フック含む）。

消火バケット：落下したバケットは令和7年4月18日に大分県防災航空隊により、水深約15mの湖底から回収された。バケットは水面への落下の衝撃によりフレームが大きく損傷していたが、機体のカーゴ・フックに接続されるシャックルに異常は認められなかった。

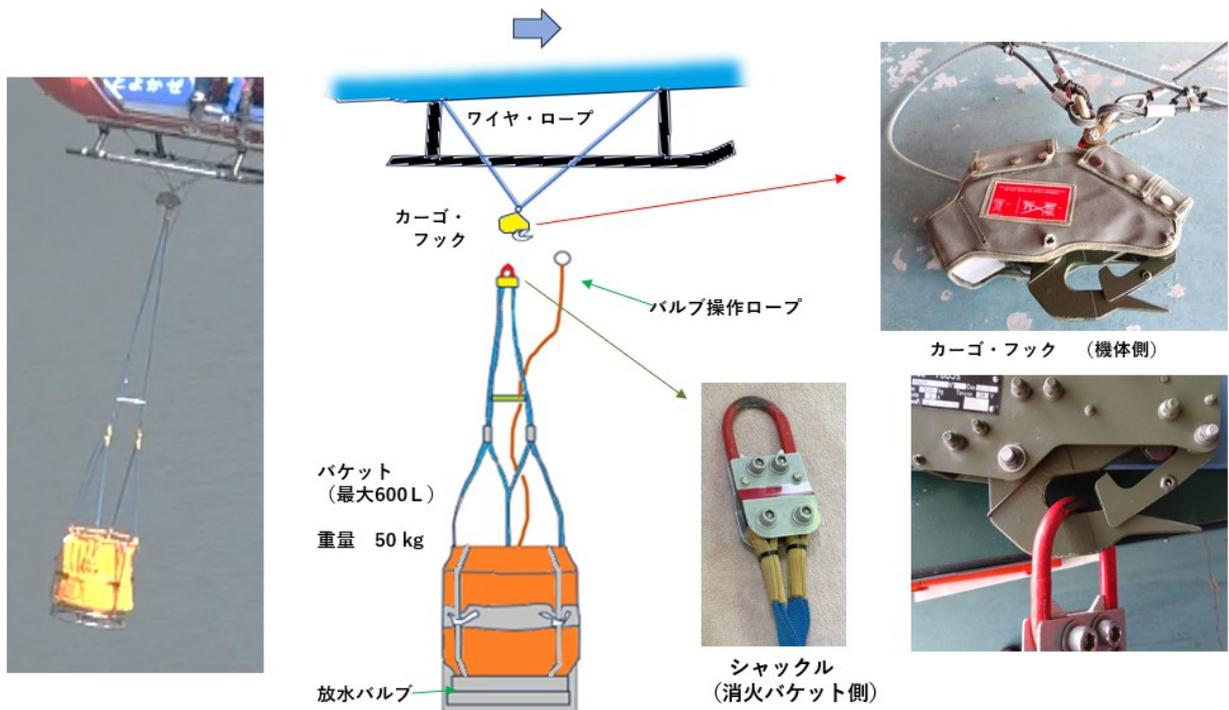


図4 消火バケット及びカーゴ・フック



図5 湖底から回収された消火バケツ及びシャックル
(大分県防災航空隊提供)

(4) 気象

機長の口述によれば、本重大インシデント関連時間帯の気象状況は次のとおりであった。

天気 晴れ、風向 南東、風速 5kt (約2.6m/s)

重大インシデント現場の南東約9.7km に位置する竹田地域気象観測所の事故関連時間帯の観測値は、次のとおりであった。

10時00分 気温 11.2℃、風向 東、風速 2.2m/s

11時00分 気温 11.6℃、風向 東、風速 2.5m/s

4. 今後の調査

本航空重大インシデントの原因の究明及び事故等の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報を基に、意図せずバケツが落下した経緯など、更なる事実確認や分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

当委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空重大インシデントの原因等の調査を進める。